

ふりがな
氏名

年 月 日生まれ (歳)
男 女

住所 〒

自宅電話

携帯電話 (緊急連絡先)

学校名

部活動

職業 事務職 介護職 立ち仕事 製造業 その他 ()

妊娠 無 有 授乳 無 有 薬のアレルギー 無 有 ()

体にペースメーカー、ステント、クリップなど金属は入っていますか？ 無 有 (詳細)

MRI検査はできますか？ 出来る 出来ない 不明

症状はいつ頃からありますか？ 症状のある箇所を人体図↓にご記入ください

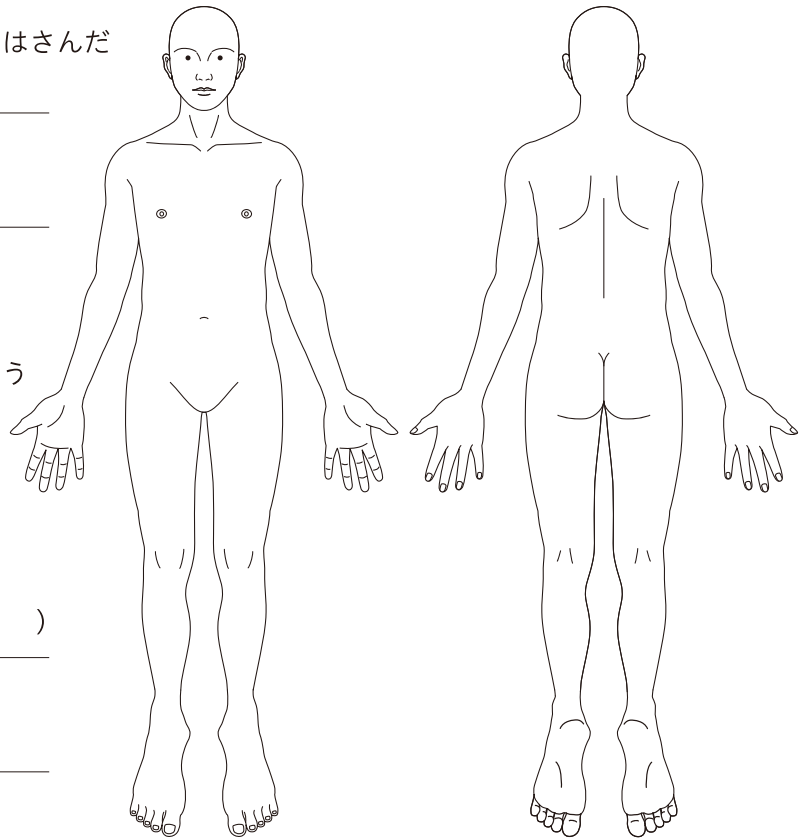
思い当たる原因はありますか？

- 転倒 ぶつけた 捻った 切った はさんだ
- 運動中 仕事中 交通事故 原因不明

きっかけ、受傷した状況の詳細をご記入ください。

どのような症状ですか？

- 痛み しびれ 腫れ 何かできている
- 安静でも痛みがある 動きに伴う痛み
- 上肢痛・しびれを伴う 下肢痛・しびれを伴う
- 脈打つような・ズキズキ・ジンジン
- 電気が走るような・しびれ痛い・ビリビリ
- おしっこや便通に支障がある
・残尿感・頻尿・尿がでない
- 触っている感覚や痛み刺激を感じない
- 力がはらない 繊細な動きができない
- その他 ()



どのような時に症状は出ますか？

今回の症状で治療を受けていますか？

- 現在 受けている 受けていない
- 過去に 受けていた 受けていない

紹介状、画像データを持参の方は受付に提出してください。

紹介状 無 有 画像データ 無 有 病院名、時期などの詳細 ()

現在治療中の病気はありますか？

- 糖尿病 腎臓病 (病名) 肝臓病 (病名)
- 胃潰瘍 喘息 骨粗鬆症 心筋梗塞 脳梗塞 高血圧 リウマチ 痛風
- その他 ()

過去にかかった病気はありますか？ 無 有 (病名などの詳細)

手術や治療をしましたか？ 手術 無 有 治療 無 有

書面による同意確認を行わない軽微な処置・医行為について

当院では、「書面で同意をいただく診療項目」と「口頭及び掲示で説明と同意確認をさせていただく診療項目」に分けて対応しております。以下の検査・医行為は、医師の立ち会いを必要としないものもあり、患者さんの心身へのご負担も一般的に少ないものです。

診療を円滑に進めるために、これらの診療項目については、説明と同意確認を口頭及び院内掲示で対応しております。

1 | 一般項目

各種問診、視診、身体診察、体温測定、身長測定、体重測定、体組成測定、血圧測定、栄養指導、カメラ等による患部撮影等(主として体表)

2 | 検査、モニター

静脈血採血(*1)(血液学検査・生化学検査、免疫学的検査・感染症検査等)、尿・糞便等検査、微生物学的検査(関節液等の採取)、検体の病理・細胞診検査、生理機能検査(心電図検査、脈波検査、超音波検査等)、X線一般撮影検査、X線透視撮影検査、骨密度測定、MRI、心理検査、経皮酸素飽和度(SpO₂)測定検査、針刺し・切創、皮膚・粘膜暴露時の感染症確認(HBV・HCV・HIV検査等)

3 | 処置

静脈血採血、動脈血採血、チューブやドレーン類のテープ固定・接続部脱着、創傷処置(洗浄・薬剤充填)、抜糸、抜釘、縫合、ドレーン挿入・抜去、鼻内処置、口内処置、爪切り、各種チューブの管理および洗浄、皮膚科的処置、整形外科的処置、形成外科的処置

4 | 投薬、投与

通常の投薬、注射、末梢静脈内留置針挿入(点滴路の確保)、持続皮下留置針挿入、酸素投与等

上記の診療行為は、一定以上の経験を有する医師・看護師・技師等によって行われ、一般的な医学的基準から考えて安全と考えられるものですが、それでも臓器および組織の損傷・精神的(心理的)動揺・出血・しびれ・アナフィラキシー・その他予期せぬ合併症を伴うことがあります。このような合併症・有害事象等は、極めて頻度が低いものの、主として行為者の技量に関わらず、一定の割合で生じる可能性があります。また、他の医療行為によるものと同様に、症状が自覚的で現在の医学では評価が困難であったり、症状等の持続期間が予測困難で、中には症状が固定して永続するものもあります。このような場合は、合併症および有害事象の治療は通常の保険診療として行われます。あらかじめご理解いただきますようお願いいたします。

(*1)——『採血』は、基本的に安全な手技であり、合併症の頻度は極めて少なく、また軽症なものが多いとされております。しかし、ごくまれに次のような健康被害を生じるとの報告があります。

①止血困難・皮下出血 穿刺後の不十分な止血操作などが主な原因です。十分な圧迫止血をしていただきます。

②アレルギー 採血時の消毒薬(アルコール)でかゆみ、発疹を初めとするアレルギー症状が出現することがあります。

③神経損傷 採血後に手指へ広がる痛み、しびれなどが生じ、一定時間が経過した後も持続します。約1万~10万回の採血に1回の頻度で起こるとされています。皮膚表層近くの神経は個人差が大きいため、神経損傷を100%防止することはできませんが、通常の採血では、太い神経の断裂などの可能性は低く、損傷は軽度で症状は軽く一時的な場合がほとんどです。

④血管迷走神経反射 心理的に緊張、不安が強いと起こりやすいとされ、採血(検査)前に起こることもあります。神経が興奮し、急激に血圧が下がるため、めまい、気分不快感、意識消失などを引き起こします。報告によりさまざまですが、0.01%~1%の頻度で起こるとされています。

●これらの合併症が起きた場合には最善の処置を行います。何かいつもと違う症状が現れた際はすぐにご連絡いただきますよう宜しくお願い致します。

医師、病院の応招義務

診療行為に対する説明の要求や診療行為への不満・改善要求を求めることは当然の権利ですが、医師が説明を終えても執拗に過度の質問、説明の要求、結果への保証を求めることにより(*2)医療機関と患者との間の信頼関係が損なわれる場合があります。医療機関と患者間で締結される契約の性質上、診療契約はサービス産業と異なり完成(完全)を目的とはせず、その時点で最善と思われる診療行為を行い、その説明を社会通念上十分と考えられる限度で行えば良いとされています。病気の完治を約束する必要は当然ありません。

(*2)——医療機関と患者間の関係が壊れるような(言い合い、怒鳴り合いなど)度を超える状況が生ずれば、診療行為自体を拒否しても問題ない。たとえその時点で納得が得られていない場合でも(複数回の診察により信頼関係が築かれることも少なくありません)、常識的な時間が経過すればお引き取り頂き、それでも居座るようであれば躊躇せず警備会社・警察への通報を考慮しても構わないとされています。患者とはいえ医療機関の意思に反する居座りは業務妨害となります。

院内における無許可での写真・動画撮影及び録音並びにSNS等への投稿の禁止について

当院では、患者さんや職員のプライバシー及び個人情報保護のため、院内で許可なく写真(動画)の撮影及び録音等(以下「撮影等」という。)を行うことを禁止しております。また、診察中、処置中のスマートフォン、電子機器類の使用も、固くお断りしております。許可なく撮影等を行っていることが判明した場合は、データを削除していただきます。